

入選 小学生の部

知識があればためらわない

富士市立神戸小学校 六年

青木 愛実

私が電車に乗っていた時のことです。座席に座っていると、目の前に五十代ほどの女の人がつりかわにつかまり、ひざを少し曲げて立ちました。その女の人のバッグに赤いキーホルダーがついているのが見えました。そのキーホルダーは赤い背景に十字とハートが書いてありました。私は（これはなんのマークなんだろう。病院のマークに似ているけれど違うかな。もしかししたら席をゆずったほうがいいのかな。でも…。）などと考えていました。そのうちに降りる駅に着き、私は電車を降りました。

電車を降りても、あのマークがなにを意味していたのかが気になっていました。

どうしても知りたくて母に電車であった出来事を話しました。母とそのマークを思い出しながらインターネットで調べると、そのマークは、「ヘルプマーク」というものでした。意味は「外見からは分からなくても援助や配慮を必要とする方々が、周囲の方に配慮を必要とすることを知らせることで援助を得やすくなるよう作成されたマークです。このマークを見つけたら席を譲ったり、困っていたら声をかけて助けてあげてください。」と書いてありました。それを知った私は、あの時席を譲ればよかったという後悔と申し訳なさも感じましたが、それ以上に、知らなければ気付くことも、何かに配慮する事もできないと強く感じました。

なので私は障がい者に関わるマークについて調べることにしました。今まで見たこともなかったり、名前や意味を知らなかったマークが多くありました。マークの意味を知り、そうしたマークを見かけたら自分がどのようにしたらいいのかも理解しました。私は調べたマークがど

こにどんなふうにあるのかが気になり、公共の場所を探しに行きました。電車の中ではマークをつけた人が立っていないかを確認しました。優先席にはヘルプマークやハートプラスマークが貼ってありました。駅のトイレにはオストメイトマーク、国際シンボルマークがありました。トイレのドアはボタンを押せば簡単にドアが開き、中も広く手すりが設置され多数の配慮がすぐに分かりました。お店の入り口には補助犬マーク、レジ前には耳マークも見かけました。今まで気づかなかったマークが身近な場所にあちらこちらにあり驚きました。切符売り場で、白杖を持ったおじいさんが立ち止まっていました。すると男の人がかけより、おじいさんの肩を優しく叩き何かを話したあと腕を組んで誘導エレベーターに案内していました。マークを調べたことがきっかけで自分の身近で起きている親切にも気づくことができました。

知識を得たことで助け合い思いやることへの視野が広がりました。今後は、迷

わず行動にうつせる自分になれると思います。助け合うことが当たり前前の社会になってほしいです。

助けてくれた友だち

島田市立川根小学校 四年

伊藤 匠之助

ぼくには、げんき君という友だちがいます。休み時間はいつもいっしょにゲームの話をしてもらったり、クラスのお笑いをいっしょにやっていて、ネタをいっしょに考えたりするのも楽しいです。授業で分からない事があつたらアドバイスをしてくれたり、分かりやすく説明してくれるので、みんなにもたよりにされています。クラスがさわがしくてぼくが注意するのを言いたせない時も、げんき君が「静かにしてー。」と言ってくれていつも助かっています。げんき君が休みの日はつまらないなーと思います。

四年生が始まって四月の終わりころに、ぼくは学校に行くのがいやになってしまい

ました。理由はよくわからないけど、とにかく行きたくなくて何日も学校を休みました。休んでいる間は、学校のこともげんき君のこともあまり考えることはありませんでした。それから先生と話をして、半日だけ学校に行くことにしました。本当は行きたくなかったけど、半日だけならがんばってみようかなと思いました。こんなに長く休んだことはなかったから、みんなに何て言われるかなとふ安も少しありました。学校に着くと教室に行くのがこわかったです。だけどみんなは、休んでいた理由を聞いたりしないで、いつも通り話しかけてくれました。ほっとしてうれしかったです。げんき君もいつも通りで、ニコニコ話しかけてくれました。半日がたつて帰る時も、みんな何も言わずにいてくれてやさしいなと思いました。

次の日学校に行くと、玄関にげんき君が待っていました。学校に着いてすぐは、気持ちが悪く感じだったけど、げんき君といっしょに教室まで行きながら少し前むきな気持ちになれました。それから毎日、玄関にげんき君がいました。最初は何でいるんだろ

うと思ったけど、と中からぼくのためにしてくれているんだなと気づきました。それから学校に行くのが少しずつ楽しくなりました。ぼくが学校に行けるようになったきっかけは、げんき君のおかげだと思います。

最近もクラスのことではやだなと思うことがあったけど、げんき君に「こういうのいやだよねー。」と話せて、「そうだよねー。」と共感してもらえたから、ぼくはもうだいたいようぶだなと思えました。学校はめんどくさいこともたくさんあるけれど、やさしいみんながいる四年生の教室が楽しいです。げんき君ともずっと友だちでいたいんです。



人と人とのつながり

浜松市立豊岡小学校 六年

大庭 琉之亮

最近は、新型コロナウイルスなどのえいきょうで、スーパーやコンビニなどのレジが、セルフレジになっている店が多くなってきたと思います。ぼくの家の近くのスーパーにもセルフレジが導入されました。そのスーパーで、ぼくが見かけたことです。セルフレジで支払いの仕方が分からないのか困っていたおばあさんを、ぼく達の前にレジを待っていたおばあさんが支払いの仕方を教えてあげていました。ぼくは、お母さんといっしょにならんでいて、お母さんがその様子を見て、

「親切なおばさんだね。」

と、ぼくに言ってきた、ぼくも同じ事を思っていました。ぼくにはできなさそうなので、すごいなと思いました。おばあさんは、

「ありがとうね。」

と、言っていました。その様子を見てぼく

は、心があたたまりました。

なかには、レジの進みがおそいと、イライラしたり、他人に声をかけたり、かけられたりするのが苦手な人もいると思います。コロナのえいきょうもあり、なるべく人と接触しないようにする人もいるかもしれません。ですが、そのおばあさんは、困っている人を助けたいという気持ちを優先して、行動をしていました。ぼくは、自分から他人に声をかけたり、助けたりするのが少し苦手です。なぜなら、人見知りの性格だからです。ですが、あのおばあさんの行動を見て、人見知りの性格を直し、ぼくも、同じように、積極的に困っている人に声をかけて、助けたりしてあげたいなと思いました。ぼくがそうなったように、人が親切にしているところを見ると、自分も人に親切にしてあげようという気持ちになります。こうして優しさの輪をたくさん広げていくことで、小さな親切でうれしい気持ちになる人が増えて、みんなが小さな親切を行えるようになってほしいです。コロナ前のように、なかなか人と接触す

る事がむずかしいかもしれませんが、人と人とのつながりが少しでも戻ってくれるといいなと思いました。

声をかけてくれてありがとう

静岡市立城北小学校 四年

西郷 凜士

ぼくは、三年生の冬にサッカーを始めました。ぼくのサッカーチームには、一年生からサッカーを始めた人が多く、三年生からチームに入ったのはぼくだけでした。

サッカーを始めたばかりのころは、ドリブルのコントロールも上手くいかず、思ったところにけることができませんでした。他にもシュートの速度がおそく、キーパーにすぐ取られてしまいました。そのため、チームメイトに、

「下手だなあ、こつちにボールよこせよ。」

と言われてしまいました。ぼくは、とてもくやしう、悲しい気持ちになりました。なみだが出そうだったけれど、そこはぐっと

がまんしました。その後も、練習は続きま
した。そんな時、チームメイトの一人がぼ
くに近づいてきて、

「ドンマイ、気にするな。ドリブルは、
なるべく足の近くからボールをはなさない
ようにすれば、コントロールが良くなる
よ。」

と教えてくれました。そのチームメイトが
声をかけてくれたことで、がんばろうとい
う気持ちになれたし、何より、チームに
入ったばかりのぼくに親切にしてくれたこ
とが、うれしかったです。

練習を終えて帰宅したぼくは、お風呂に
入りながら、ふと思いました。もしぼくが、
声をかける立場だったら、落ち込んでいる
チームメイトに声をかけられたかなあと。
そういう事が苦手なぼくには、多分無理そ
うです。何て声をかけたらいいのか分から
なく、ドキドキしてしまうからです。

親切にすることというのは、かんたんなこ
とではありません。少しだけ勇気がいりま
す。行動力も必要です。しかし、とても大
事なことなんだなと思いました。親切にし

てもらった人もした人も良い気持ちになり
ます。なぜなら、親切にもらった人は
うれしい気持ちになり、親切にした人はお
礼にありがとうと言われてうれしくなりま
す。

ぼくは、自分から人に話しかけたりする
ことが、少し苦手です。だから、人に親切
にすることも苦手なかもしれません。だ
けど、これからは少しの勇気と行動力を
持って、小さなことでもいいから、人に親
切にできたらいなと思います。なぜなら、
一人が親切にすると周りに幸せや親切が広
がっていき、一人、また一人と親切な行動
をする人がふえ、親切が伝わっていくと思
うからです。

私の心のワクワク

湖西市立東小学校 三年

豊田 隼都

ぼくは、いままでにインフルエンザのワ
クチンは、うでにちゅうしゃしたことがあ

ります。でも、ワクチンとは何か分からず
にいました。何のためにワクチンをつつ
か知りたくなり、じ書で意味を調べてみま
した。

ワクチンとは、びょう気にならないよう
に弱いきんを体の中に入れてびょう気にな
るのをよぼうする物と書かれていました。
何でびょう気にならないようにするのに体
にきんを入れないといけないのかとてもふ
しぎに思いました。びょう気にならないよ
うにするならきんから体をまもらないとい
けないと思ったからです。しかし、その理
由はぼくがインフルエンザにかかって分か
りました。よぼうせつしゅした時にはねつ
はたかなくなりすぐになおりましたが、よぼ
うせつしゅをしなかつた時は四十日上の
ねつが出て、とてもつらかったです。体に
きんを入れることで、こんなきんがあるん
だよと、先に体に知らせると、
「たたかうたいせいになって、きんが入っ
てきてすぐにはいじでできるのだなあ。」
と思いました。

「インフルエンザやコロナにはワクチンが



入選

あるのは知っているけど、心のびよう気にならないワクチンはあるのかなあ。」

と考えてみました。

まず、心のびよう気とは、どんなものなのか調べてみると、色々なびよう気がありました。びよう名を聞いてもよく分からなかったけど、学校へいきたくなかったり、くるしくなったり、おちこんだりする物だと分かりました。ぼくも同じような思いをしたことがあります。それは、友だちとけんかしたりなかせてしまったりした時です。

「悪い事をしてしまった。」

「どうしよう。」

と、なやんだ時にとても心がくるしくなりました。ぎやくに、ぼくがなかせられた時も同じように心がくるしくなりました。そんな時にぼくの心をささえてくれたのはかぞくでした。ぼくが、家でいつもとちがうたいでいることをすぐに見つけられ、しょうじきに話し、お友だちの家へあやまりに行って、なかなかおりができ、次の日には元気に学校へ行くよう手だすけをしてくれました。どんな時でもぼくの味方でいてく

れる家ぞくは一番の心のワクチンです。インフルエンザやコロナのワクチンとは意味がちがったけれど、心がいたくならないようによぼうするという意味では同じだと思います。友だちがおちこんでいたり、やんだりしていたら、ぼくが心のワクチンになれるようになりたいです。

小さなしんせつは大きなしんせつ

浜松市立和田小学校 二年

花岡 薫

一学きの夏休み前のことです。

ハンカチ、ティッシュいれを、トイレの中に、おとしてしまいました。いそいで、ぬれてないところをつまみあげて、ひろいました。

トイレから出て(ぬれたハンカチ、ティッシュいれをどうしよう。)と想っていたら、クラスの子が目の前にいて、「どうしたの。」と、聞いてくれました。「トイレにハンカチ、ティッシュいれを、おとしてしまった。」

と言ったら、クラスの子が先生のところに、すぐにもって行ってくれました。そして、先生があらってくれました。ふくろの中に、入れてくれました。

こまっていたところをたすけてくれて、とてもうれしかったです。一学きは、いろいろなときに、なんんかの友だちがささえてくれて、のりこえられました。

小さなしんせつは、わたしにとっては、小さなしんせつではありませんでした。大きなしんせつにかんじたし、すごく気もちが、おちつきました。これからは、わたしも、こまっている人がいたら、たすけたいです。いろいろな人にやさしくしたいです。



交番の前で

浜松市立都田南小学校 四年

松野 二久

八月六日、日曜日、晴れ時々雨。

買ってもらったばかりのおかしが入っているエコバックを、右手でギュッと持ったぼくは、クリエート浜松横の交番前の信号が青になるのを、お母さんといっしょに待っていた。

お母さんが急に、

「コレ、持ってた。」

と、日がさと、かばんをぼくに押しつけて、赤信号の道の真ん中に、手を上げながら行ってしまった。走って行った方向を見ると、知らないおばさんの小さな自転車がひっくり返って、道の真ん中で荷物が広がってしまっていた。

お母さんは、おばさんを助けるために走って行ったのだった。レジ袋から転がり出た、ちくわ、おそうざい、ズボット首が

中にめり込んだ2リットルのペットボトルなどを、次々にレジ袋の中にもどしていた。車がよけてくれるか、ひかれないようにキョロキョロ見ながら拾っていた。ぼくも、助けに行こうと、一歩二歩、歩き出したら、

「ソコデ、待ってなさい!!」

と、どなられた。お母さんには、後ろにも目があったのかな……。

転がり出た物を拾う間、おばさんは自転車をおこすのが、せいっぱいで、何も拾えず立っているばかりだった。きつと、どうしていいのか、パニックだったんだと思う。

全部お母さんが拾い終わった時に、ちょうど信号が青にかわって、ぼくが道の真ん中まで行き、三人で無事に道をわたった。そこで、おばさんは何ともいえない顔で、「ありがとう。」

と言って、ノロノロと自転車にまたがって、危ない感じで走って行った。

おばさんの小さな自転車は、前カゴも、後ろカゴもいっぺいだった。そして前カゴ

には、花の絵の付いたつえがささっていた。足が悪いのかな、無理して来たのかな、危ないなと思った。

ぼくは、左手に押しつけられた日がさを、そっとお母さんに差しあげてあげた。そっとなかった。お母さんのお出掛け用の服は、汗で色がかわっていた。

「おばさん!! 気をつけてね。」

その時、ぼくは、汗でちよつと目が痛くなっている事に気がついた。

その後、クリエート浜松の片付けのお手伝いが、晴ればれとした気持ちでできて、楽しかった。中沢先生が、片付けのごほうびに、ぼくだけにおかしをくれた。おいしかったな。

帰りに、お母さんが失敗した事は、ないしよにしておくれ。



入選

お兄ちゃんの親切

浜松市立有玉小学校 三年

松本 弦士

今年の夏休みがはじまったある日、ぼくはお兄ちゃんといっしょに、かみを切りに行きました。いつもはお母さんがつれて行ってくれてるのですがお仕事だったのでふだん自でん車で行くお兄ちゃんもこの日は歩いてびょういんへ行ってくれました。はじめて通る道なので自動車とのきよりも近くてドキドキしましたが、お兄ちゃんがぼくの外がわにきて歩いてくれたので安心でした。かみの毛を切ってもらいサッパリして家へ向かいました。二人でお話しながら歩いてたその時です。歩道のまん中でおじさんが自でん車といっしょにたおれ、おでこからちをながしていたのです。ぼくは心がギューっとしめつけられる感じがしました。そして（どうしようこわいよ）と思いました。次のしゅん間横にいたお兄ちゃんがバーと走ってそのおじさん

に「大丈夫ですか、いたいですか？きゅうきゅう車よびましようか？」と声をかけているのです。ぼくは、どうしたらよいのか分からなくて、お兄ちゃんを見ているだけでした。

たまたまびょういんが目の前だったので、お兄ちゃんはおじいさんをつれてびょういんへ入りました。すぐにかんごしさんも来てくれて、ちをあらいながしてくれました。「もう大丈夫だよ、ありがとうね。」と言われ、やっとぼくのドキドキもおさまりました。おじいさんがもう大丈夫だと分かかってぼくとお兄ちゃんはまた家へ向かいました。歩いてる時に、ふと横にいるお兄ちゃんの顔を見るとかっこよくみえて、なんだかいつものお兄ちゃんじゃないみたいだなって思いました。いつものお兄ちゃんはお母さんによくおこられていて、その後すぐに、ぼくにおこってきます。ぼくの知っているお兄ちゃんとは別の人みたいでした。そして、あんなふうには知らない人な心ばいしてびょういんにつれて行くお兄ちゃんをすごいと思ったし、なんでそんな

ゆう気が出たんだろうってふしぎな気持ちになりました。

夜ごはんのとき、お父さんはじっとお兄ちゃんの話聞いていて本当にうれしそうに「いいことしたなあ。えらかったなあ。」とお兄ちゃんをほめていました。お母さんはやっぱりうれしそうにこにこしてました。お姉ちゃんは、目をまんまるにして、「お兄ちゃんすごいじゃん。」と言いました。みんなを見ていてぼくもむねのあたりがあつく感じるようになりました。親切ってドキドキとワクワクとジワッとニコニコだと思いました。

心配を親切に

伊豆の国市立長岡北小学校 六年

吉橋 明希

(大丈夫かなあ。)

夏休み前のある日の出来事です。

夏休みに入るため、重い荷物を持って帰る三年生の男の子が、たまたまわたしの前を歩いていました。わたしはふと、こんなことを思いました。

みなさんも、テレビや本などで、大きな荷物を持ったおばあさんを助けるなどのお話を見た事があるかと思います。私はそんなお話を聞いたり、見たりすると、親切だな。と心が温まります。

また、わたしも低学年のころ重い荷物を持って帰ったことがあります、上級生のお姉さんが、荷物を持ってきてくれて、うれしかった思い出もありました。

この男の子もあの時のわたしの様に今、困っているのだらうと思ひ、勇気を出して、

「荷物、持とうか？」

と声をかけると、うれしそうにうなずいてくれたので、私まで安心しました。

わたしは男の子を見送った後、良い事をしたな、と体が軽く満足して家に帰りました。

その次の日。ちょうど終業式の日の帰ります。わたしの学校では、地区ごと一列で並んで帰る集団下校をしています。

わたしが先頭で歩いていると、後ろの一年生の男の子とのきよりが開いてしまっています。

(おっと、ちょっと速すぎたかな。)

と足を止めると、はあはあという今にも本当に息が切れそうな声が近づいて来ます。それに、重そうな荷物を両手いっぱい持っています。

(悪い事したな。これは見のがせない。)

と、昨日と同じように、

「荷物、持とうか？」

と、手をのばすと、その男の子は、

首をふって断りました。

わたしはその後歩くスピードをおとし、後ろをちらちらとふり返りながら歩き、

(あんなに苦しそうに見えたのに…。本当に良かったのかな?)

というろと考えました。

もしかして、他にも友達がいたからはずかしかったのかな?わたしの声のかけ方が相手に気を使わせちゃったのかな?と少し後かいました。

わたしは、この二つの出来事で自分が親切だと思った事も相手の受けとり方や状況きょう、立場などのちがいで、人にたよりにくくなってしまふ事もある事を知りました。親切の受けとり方は人それぞれですが、親切にしようとした事が相手に断られたとしても、相手は、ありがとうという気持ちを伝えてくれます。なので、親切は人と人を結ぶ大切な事です。断られる事があつても、わたしは、困っている人に自分から声をかけたいと思います。



入選